

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 竹井 佳奈 )
学 級 名	2年 1組	男子 11名 女子 10名 計 21名
教 科 名	体育科	
単 元 名	マットを使った運動遊び	
本時の目標	きれいな前転をするためにはどうしたら良いかを友達と比べて発見することができる。	
論理的思考 力をつける ための手立 て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u> 導入において、前時に撮影した自分の前転を見て、どうしたらもっとうまくなるか気付いた。本時では、「自分と友達の前転を比べる。」という課題を設定した。子供達自身が、自分と友達を比較しながら前転をもっときれいにできるよう試行錯誤しながら、主体的に学びに向かうことができる考える。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u> 前時に撮影した自分の前転と、本時で見る友達の前転を比べてどこが違うか発見しようと発問する。子供が比較して答えたら、次に前転をするときは、その比較したことを意識してできるようにしようと伝えることで、課題に沿った考えをもつことができる考える。</p>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>1 準備体操をする。</p> <p>2 前時を振り返る。</p> <p>○ 前転のポイントを確認し自分の前転の動画を確認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前転でのポイントを確認する。</li> <li>前時で撮影した動画を確認する。</li> </ul> <p>○ 約束事の確認をする。</p> <p>3 学習活動を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>課題 自分と友達の前転を比べる。</p> </div> <p>○ めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>めあて かっこいい前てんのやり方をみつけよう。</p> </div> <p>4 ストレッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前転に必要なストレッチをする。</li> </ul> <p>5 全体で前転のポイントの確認、うまい友達を発見することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初に見た自分の前転と比べて違う所を発見して、比較する。</li> <li>マットでの注意点を確認する。</li> </ul> <p>6 うまい友達を見つけ、自分と比べてどうか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○○さんは自分と比べて、手の平をしっかりと開いている。</li> <li>○○さんは自分と比べて、勢いよく回っている。 など</li> </ul> <p>7 最後にもう一度前転をする。</p> <p>8 かっこいい前転をするためにはどうしたらいいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前転でのポイントをおさえる。</li> <li>次の学習で前転の動画を撮って比べる事を伝える。</li> </ul>	<p>○自分の前転の映像をしっかりと確認するように声をかける。</p> <p>○クラスでの約束は徹底させる。</p> <p>○「めあて」にかっこいいという言葉を使って子供達が意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>○比較して発言するよう声をかける。</p>

《最終板書》

省略

《実践を終えて》

手立て①「動き出したくなる課題」

・自分の前転を見るということができなかったが、大型テレビを使い、友達の前転の様子を見ることができ、前転でのポイントを映像で見ながら再確認する姿が見られた。また、自分の前転の映像を思い出しながら、自分の前転と比べて友達の良いところを見つけることができた。

児童の学習感想より

- ・友達にたくさんのポイントを聞くことができた。  
→めあてを達成しようとお互いに協力し合い、取り組んでいることがわかる。
- ・かっこいい前転をするために、前転のポイントを正確に理解し、かっこよく決めることができた。  
→課題に主体的に取り組んでいることがわかる。

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 降矢 万由子 )
学 級 名	2年 2組	男子10名 女子10名 計20名
教 科 名	音楽科	
題 材 名	おまつりの音楽	
本時の目標	リズムを聴き取り, その働きが生み出すよさを感じ取りながら演奏の楽しさを見いだして表現することができる。	
論理的思考力をつけるための手立て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u></p> <p>前時に「村まつり」の学習を行った際に, たいこや笛がお祭りの雰囲気盛り上げていることに気付いた。本時では, 「おまつりの音楽をつくって楽しもう」という課題を設定した。子ども自身が楽しいお祭りの雰囲気を感じられるような音楽を試行錯誤しながら, 主体的に学びに向かうことができると考える。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u></p> <p>『♪♪♪♪』(一定のリズム) と 『♪♪♪♪♪』(変化のあるリズム) では, どちらのほうが楽しいお祭りの音楽に合うのか。」と発問する。子どもがリズムを選んだときに, なぜそのリズムを選んだのか根拠を述べさせることで, 課題に沿った考えをもつことができると考える。</p>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>☆リズム遊び</p> <p>1. 前時を振り返る。</p> <p>○日本のたいこの音楽を聴いたことを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんさ踊りの太鼓</li> <li>・津軽じょっぱり太鼓</li> <li>・御陣乗太鼓</li> <li>・八丈太鼓</li> </ul> <p>○演奏の違いを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんさ踊りの太鼓→一人ひとつの太鼓をリズムをそろえてたたく。</li> <li>・津軽、八丈太鼓→一つの太鼓を2人で様々なリズムでたたく。</li> </ul> <p>2. 本時の活動を知る。</p> <p>○リズムを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された2拍ずつのカードのリズムを手で打ちながら確認する。</li> </ul> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">① ♪   ♪ ドン   ドン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">② ♪   ♪ ドン   ウン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">③ ♪♪   ♪♪ ドコ   ドコ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">④ ♪♪   ♪ ドコ   ウン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">⑤ ♪   ♪ ドン   ドコ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">⑥ ♪♪   ♪ ドコ   ドン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">⑦ ♪♪   ♪ ドドン   ド</div> </div> <p>○めあてを知る。</p> <p>「リズムをつなげて楽しいおまつりの音楽をつくろう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手拍子をするように声をかける。</li> <li>・太鼓の数やリズムの違いについて注目させる。</li> <li>・ワークシートを配布する。</li> <li>・リズムの確認を教師のまねっこで把握させる。</li> <li>・ワークシートに記入させる。</li> </ul>

○リズムを比較し、どちらのリズムの方が楽しそうか考える。

・「♪♪♪♪」(一定のリズム)

・「♪♪♪♪♪」(変化のあるリズム)

→色んなリズムを混ぜた方がにぎやかな感じがする。

3. 課題を追究する。

○リズムをつなげてお祭りの音楽をつくる。

・手拍子

4. 課題を深める。

○友達の考えたリズムを知る。

5. 学習のまとめをする。

○本時の感想を書く。

・なぜそう思ったのか根拠をたずねる。

・カードを4つ選んで音楽をつくることを伝える。

・つくった音楽を手拍子して確認しながら活動することを伝える。

・書画カメラを使用し、つくった音楽を共有する。

・上手にできたこと、楽しかったことを記入するように声をかける。

### 《最終板書》



### 《実践を終えて》

#### 手立て②「確かな発問」

「一定のリズム」と「変化のあるリズム」を、どちらのリズムの方が楽しいお祭りの音楽に合うのか比較する際には、実際に子どもたち自身が手でリズムを打ちながらどんな違いがあるのか比較している姿がみられた。また、音を奏でることに対して、主体的に学習する姿勢を導き出すことができた。「変化のあるリズム」の方が楽しいと感じる理由について、「違いをつけると盛り上がるから」や「いろいろなリズムを使うと楽しいから」と根拠を導き出させることができた。

#### 児童の学習感想より

・リズムはずっと同じだと盛り上がらないけど、リズムはいっぱいあるからいっぱいリズムを使うと、盛り上がるということが分かった。→リズムに変化をつけるとどうして良いのか根拠を持っている。

・いろいろなリズムを使って楽しい音楽をつくることができて楽しかった。→課題に主体的に取り組むことができたことが分かる。

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 飯野 由美子 )
学 級 名	3年 3組	男子 15名 女子 20名 計 35名
教 科 名	道徳	
単 元 名	ハチドリのひとつ	
本時の目標	自然の素晴らしさや偉大さを理解し、大切に守ろうとする心を育てる。	
論理的思考力をつけるための手立て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u></p> <p>導入で、美しい自然と破壊された自然の写真を見せることで、児童の問題意識を引き出し、学習課題を設定する。問題意識をしっかりと持たせることで、課題解決への意欲が高まると考える。また、教材での学びを生かし、「つなげよう」の活動で地球環境のために自分ができることを考えさせて課題解決へとつなげる。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u></p> <p>教材を通しての学びでは、考えの違いが明確になるような発問を行う。</p> <p>「つなげよう」の活動では、自分の考えを根拠をもって説明したり、友達の考えとの相違点に気付いたりできるような発問を行う。</p>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>1 自然の写真を見て問題に気付く。</p> <p>○ 美しい自然。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ きれい。</li> <li>・ いやされる。 など</li> </ul> <p>○ 破壊された自然</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひどい。</li> <li>・ かわいそう。</li> <li>・ このままじゃこまる。 など</li> </ul> <p>2 学習活動を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><b>課題</b></p> <p>環境破壊を止めることはできるのだろうか？</p> </div> <p>教材名「ハチドリのひとつ」</p> <p>3 教材文を読んで話し合う。</p> <p>○一滴ずつの水を火の上に落とすハチドリ（クリキンディ）の思いと、それを見る動物たちの思いを考える。</p> <p>クリキンディ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わたしは、わたしにできることをしているだけ。」</li> <li>・ 何もしないよりは、少しでもできることをしたい。</li> <li>・ むだかもしれないけど、だまって見ていることはできない。</li> </ul> <p>動物たち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そんなことをしてもむだなのに。</li> <li>・ 速く逃げた方が良い。</li> </ul>	<p>○美しい自然と破壊された自然の両方を見せることで、児童の問題意識を引き出す。</p> <p>○写真から引き出された問題意識を課題として設定することで、学習への意欲を高める。</p> <p>○短い文章ではあるが、それぞれの思いを押さえることで、次の「つなげよう」の活動が充実するようにする。</p>

#### 4 「つなげよう」

地球で起こっている問題を知り、自分にできることはないかを考える。

- ・ゴミを捨てないようにしたい。
- ・残さずに食べたい。
- ・ものを大切に長く使いたい。

#### 手立て②「確かな発問」

○考えられる発問

- ・ どうしてそう考えたのかな？（根拠を問う）
- ・ 考えの似ているところはどこかな？（共通点を問う）
- ・ 考えの良いところはどこかな？（よさを問う）

○美しい自然を見て、自然の良さを味わわせる。

#### 5 美しい自然の写真を見る。

##### 《最終板書》



##### 《実践を終えて》

##### 手立て①「動き出したくなる課題」について

導入で見せた映像から課題を見つけ、本時の学習課題として設定したことは、児童自身が自らの課題として捉えることに有効であった。子供たちが、「環境破壊について考えたい」という思いをもって主体的に考えることにつながった。美しい自然と破壊された自然の映像を、効果的に使用できた。

##### 手立て②「確かな発問について」

児童の発言に対し根拠や共通点を問うことで、児童自身が友達の意見と自分の意見を比べたり、共通点を見つけ出したりすることができた。

##### 児童のワークシートより

- ・ ごみをへらす。そのために、何回も使える物を使う。そうすればごみがへる。
- ・ ごみは、自分で持ち帰る。そうすれば、地球がきれいになるし、動物たちも楽しく生きられる。ごみは、リサイクルすれば、何度も使えるしむだはない。
- ・ お店に、エコバッグを持っていけば、プラスチックごみがへると思う。
- ・ ふだんから、ゴミをへらし、よけいな物を買わなければこの地球はよごれない。
- ・ 食べるこしを、少しでも良いからなくす。そうすれば、食品ロスがなくなる。
- ・ 使わないときは、電気やテレビは消しておく。

※子供たちは、「ハチドリのようにほんの小さな力かもしれないが、自然を守るために自分にできること」を一生懸命考えていました。3年生でも、環境問題についてのさまざまな言葉や現象などを知っている児童や関心が高い児童が多いことに驚きました。



授業デザインシート 授業者:(土橋 真佐子) ALT:(Clint Sean Menezies)		
学級名	5年4組	男子15名 女子13名 計28名
教科名	外国語科	
単元名	Unit 6 What would you like? (8時間中の1時間目)	
本時の目標	丁寧な注文の仕方を知り、実際にやり取りできるようになる。	
論理的思考力をつけるための手立て	<p><u>手立て「動き出したくなる課題」</u></p> <p>①導入時に、ALTのふるさとの食べ物について紹介し、興味関心を持たせる。</p> <p>②導入の段階で単元全体の目標や、最後に行う活動についてあらかじめ伝えておくことで、見通しをもって学習できるようにする。</p> <p>③4年生で学習した“What do you want?” “I want ~.”の表現を思い出させ、親しい間柄で使用 する表現とは異なり、より丁寧な言い方があることを伝え、学年間のつながりを実感した上 で本単元を学習できるようにする。</p>	
学習活動・内容		指導上の留意点
1 Greeting あいさつをする。		
2 Sounds and Letters P.95 音声を聞いて、実際に発音し、始まりの音と同じ絵の口に✓を入れる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書の音声とALTによる発音の両方を聞かせる。</li> </ul>
3 Small talk ALTのふるさとである、南アフリカの食べ物について聞く。 スライドで写真を見せながら、どんな風に作るのか、どんな味なのかを紹介する。		<p><b>手立て①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が興味関心をもてるよう、写真を見せながら実際の味や使われている食材などについて話す。</li> <li>活動前に国名を確認する。</li> </ul>
4 Let's Watch and Think 各国の餃子の違いがテーマとなっている動画を見て、線で結ぶ。		
5 Today's goal <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ていねいな注文の仕方を知ろう</div> 本時の目標と単元末の活動で行うことについて知る。 (単元末の活動：学習した表現を用いてお店を開き、店員と客に分かれてやり取りをする)		<p><b>手立て②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生で学習した表現を思い出させ、より丁寧な言い方があることを伝える。</li> <li>単元末の活動で行うことにも触れ、見通しをもって学習できるようにする。</li> </ul>
6 Word Link Activityで使用する食べ物の言い方を確認する。		
7 Activity “What do you want? I want ~.”と、 “What would you like? I'd like ~.”の違いについて知り、丁寧な表現を使って会話をしてみる。		<p><b>手立て③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両方の表現を板書し、視覚的にも違いが分かるようにする。</li> <li>指導者とALTによるデモンストラーションを行い、児童が安</li> </ul>

### 会話例

A: What would you like?

B: I'd like hamburger, French fries and ice cream.

A: OK. Hamburger, French fries and ice cream?

B: Yes, please.

※注文したいものについては、Picture Dictionary の食べ物ページを見て決める。

### 8 Reflection

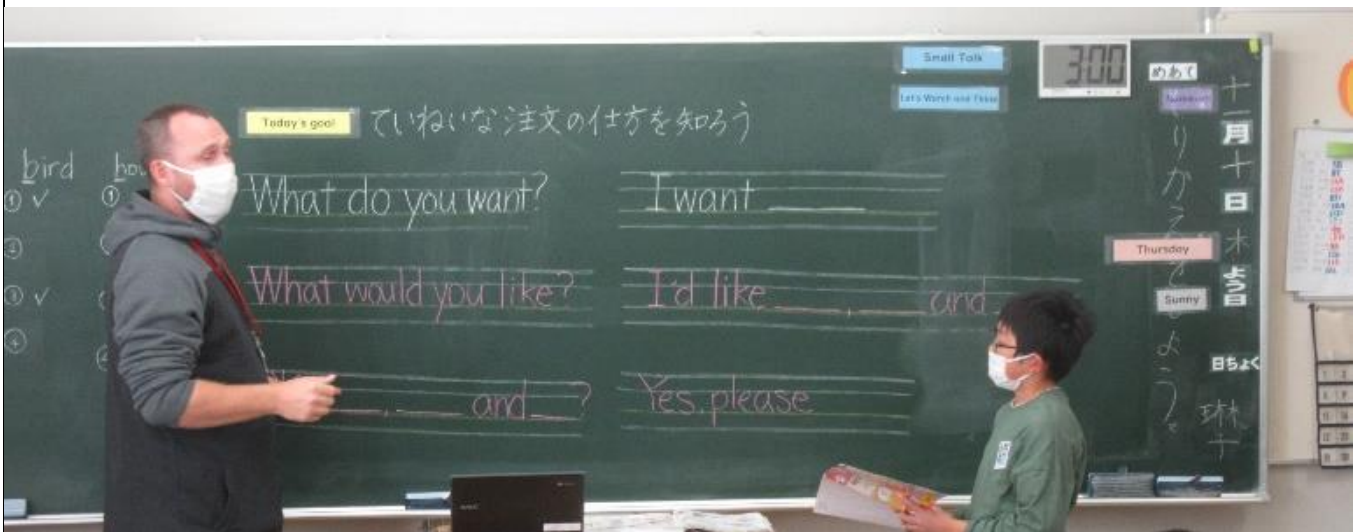
振り返りシートに記入する。

Picture Dictionary の食べ物の下に値段が書かれていることに触れ、次時では会計の仕方について学習することを予告する。

心して活動できるようにする。

- 単元末の活動を意識し、店員役と客役のそれぞれの立場を理解した上で会話ができるように声をかける。
- 中間指導を行い、再練習が必要な表現や困ったことがないか確認する。
- 次回の予告をし、次時の活動への意欲を持たせる。

### 《最終板書》



### 《実践を終えて》

#### 手立て「動き出したくなる課題」

- ① 導入時に行った ALT のふるさとの食べ物についての紹介では、児童より「わぁ、おいしそう」「食べてみたい」など、興味関心を示す言葉が聞かれた。身近な存在である ALT の出身国の食べ物を紹介することは、児童にとって非常に興味を引くものであることが分かった。
- ② 導入の段階で、最後に行うお店屋さんの活動について伝えたところ、オープンに向けて表現を練習しようというモチベーションになったようであった。指導者だけでなく、児童も最終的な目標を理解しておくことで、見通しがもてるだけでなく、それぞれの学習活動が意味を持つものとなると感じた。
- ③ 4年生で学習した“What do you want? I want ~.”の表現を思い出させたところ、学習内容を覚えていた児童が多く、スムーズに“What would you like? I'd like ~.”の表現に移ることができた。



授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 大原 光彦 )
学 級 名	3年 3組	男子 15名 女子 20名 計35名
教 科 名	理科	
単 元 名	「物の重さをくらべよう」(7時間中の2時間目)	
本時の目標	形を変えたときのねん土やアルミはくの重さを調べ、物は形を変えても重さは変わらないことを捉えることができる。	
論理的思考力をつけるための手立て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u> 前時は、形が異なるねん土を手を持たせ、持った感じの重さについて話し合った。本時は、形を変えたねん土とアルミはくの重さを量り、重さが変わらないことを確かめていく。電子てんびんを使い、児童自ら実験を行わせたい。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u> 平らに伸ばしたねん土と丸めたねん土を手を持って、「丸めたねん土の方が重く感じるけど、重さは変わらない」という児童の考えをゆさぶっていきたい。実験を行う意味を明らかにさせることが重要だと考えている。</p>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>1 前時に見いだした問題を確認し、結果についての見通しを持つ。</p> <p>○ ねん土を手で持った感じについて思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平べったいねん土は軽く感じた。</li> <li>形がかわっても重さはかわらないのではないか。 など</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>課題</b> 物は形をかえると重さはかわるのだろうか。</p> </div> <p>2 重さは変わるのか変わらないのか、どのように調べたらよいか、今日の学習活動を把握する。</p> <p>○本当に同じ重さなのか、電子てんびんを使って調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>めあて</b> ねん土とアルミはくの形をかえて重さをはかってみよう。</p> </div> <p>○電子てんびんの使い方を覚える。 ○調べるねん土の重さを量る。 ・ねん土を小さい玉に分けて重さを量る。→平らにして重さを量る。 ○結果を発表する。 ○調べるアルミはくの重さを量る。 ・細かくちぎった重さを量る。→丸くかためた重さを量る。 ○結果を発表する。</p> <p>3 調べた結果からどんなことが言えるか考える。 「実験の結果から物の形と重さとの関係でどのようなことが言えますか？」</p>	<p>○平らに伸ばしたねん土と丸めたねん土を手を持って、「丸めたねん土の方が重く感じるけど、重さは変わらない」という児童の考えをゆすぶる。</p> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>手立て① 「動き出したくなる課題」</p> </div> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>手立て②「確かな発問」</p> </div> <p>○書画カメラを使って、電子てんびんの使い方を説明する。 ねん土をのせるときには、画用紙をのせ、数字を0gに補正することを示す。 ○7班に机を移動させ、実験を行う</p> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>手立て②「確かな発問」</p> </div> <p>・量った重さを理科ノート54ページ</p>

- 物の形は変わっても、物の重さは変わらない。
- 形によって重く感じたり軽く感じたりはするけど、重さは変わってはいない。

4 わかったことをまとめる。

まとめ

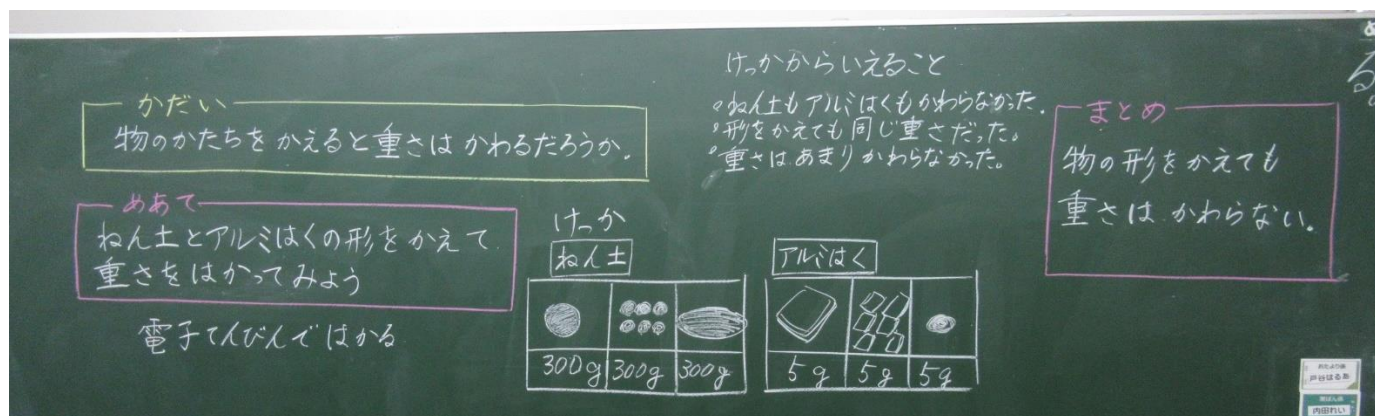
物の形をかえても重さはかわらない。

5 本時の学習を振り返る。

ージに記入させる。

理科ノート54ページに記入させる。

《最終板書》



《実践を終えて》

#### 手立て①「動き出したくなる課題」について

形の違うねん土を手の平にのせたら、重さに違いがあったことを思い出し、今日の課題「物は形をかえると重さはかわるのだろうか。」そして、実験のめあて「ねん土とアルミはくの形をかえて重さをはかってみよう。」につなげていった。「本当に重さが変わらないのか、調べていきたい。」「自分たちで形を変えるなんておもしろそう。」「早くやってみたい。」という意欲付けになったようである。電子てんびんの使い方を説明する際、書画カメラを使ったことで、視覚的に確認することができ、有効であった。「自分でやってみたい。おもしろそうだ」という実験を取り上げたことは、「動き出したくなる課題」として適切だった。どの子ども主体的に学習に取り組むことができたと考えられる。

#### 手立て②「確かな発問」について

「ねん土とアルミはくの形をかえて重さをはかってみよう。」について

実験方法をわかりやすく説明する発問である。実験の手順、実験器具の使い方、形を変える際に気を付けることなど、ポイントをしばって指導しなければならない。理科の実験では、とても大切な指導であると考えられる。

実験の結果から物の形と重さとの関係でどのようなことが言えますか？」について

結果からまとめに入る前の考察の場面である。自分の言葉で表現させたい場面である。今回の授業では、多くの子どもが発言し、「形を変えても重さは変わらない。」という、まとめにつなげていくことができた。

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 古 屋 寿 )
学 級 名	6年 2組	男子 16名 女子 14名 計 30名
教 科 名	理科(第1時/全8時間)	
単 元 名	てこのはたらき	
本時の目標 (ねらい)	はさみ(てこを利用した道具)で段ボール紙を切る活動を通して、どのようにすれば楽に段ボールを切ることができるかに興味をもち、今後の学習問題を見いだすことができる。	
論理的思考 力をつける ための手立 て	<p>手立て①「大小のはさみで切ったり,切る位置を変えたりすることで,段ボール紙の切れ方の違いを比べさせる。」(動き出したくなる課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調べる時間を十分に取ることで,児童達自らが,いろいろな事に気づくようにさせたい。</li> </ul> <p>手立て②「気づいた事を基に,どのような時に楽に段ボールが切れるのかを考えさせる。」「はさみはどのなしくみで物を切ることができるのかな?カッターとの違いは何だろうか?」(確かな発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切る位置(作用点), はさみの中心(支点), 力を加える位置(力点)に気づかせたい。</li> <li>個で考え,班で考え,全体で考えることで思考を深めていきたい。</li> <li>これからの学習(てこのはたらき)に興味をもたせたい。</li> </ul>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>1 問題把握</p> <p>○ 問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(問題1)</p> <p>大小のはさみを使い,いろいろな切り方で段ボール紙を切ってみよう。気づいたことは何ですか。</p> </div> <p>2 自力解決</p> <p>○ 一人ずつ順番に実験を行い,それぞれがノートに気づきを書く。</p> <p>3 意見交流</p> <p>○ 班で話し合ったあと,全体で気づきを交流する。</p> <p>4 気づき検討・問題把握</p> <p>○ 気づいたことから問題を見つける。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(気づいたこと)</p> <p>・大きいはさみの方が切りやすい。・小さいはさみは,力がいれづらい。・はさみの先で切るよりはさみの奥で切った方が,楽に切れる。・</p> <p>(問題2)</p> <p>どのような時に段ボール紙は楽に切れるのだろうか。</p> </div> <p>○ はさみのしくみから考える。</p> <p>○ はさみとカッターとの違いから考える。</p> <p>5 まとめ</p> <p>○ はさみはてこを利用した道具であることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>右手と左手の両方で行わせ違いを見つけさせたい。</li> <li>力を入れる場所を変えるなどいろいろなやり方で段ボール紙を切らせたい。</li> <li>なぜ2つのはさみを使うのか,なぜはさみにシールが貼ってあるのかも考えさせながら取り組ませたい。</li> <li>当たり前だと思ってしまう気づきもノートに書かせたい。</li> <li>気づいたことを基に,なぜそのような結果になったのか児童自らに疑問をもたせたい。</li> <li>はさみのよく観察させ仕組みを考えさせる。</li> <li>はさみとカッターをくらべさせる。</li> <li>今後の学習(てこのはたらき)に意欲をもたせたい。</li> </ul>

《最終板書》

11月10日(木) 晴れ 12℃

(問題1)

大小のはさみを使い、いろいろな切り方でダンボールを切ってみよう。気づいたことは何ですか。

(気づいたこと)

- ・大きいはさみの方がよく切れた。
- ・はさみの奥(黄色シールのところで切るとよく切れた。
- ・はさみの先(青いシール)のところは、切りにくかった。
- ・小さいはさみは、力が入れづらかった。
- ・切る場所によって切れ方が違った。

(問題2)

どのような時にダンボールは楽に切れるのだろうか。

(まとめ)

- ①はさみの中心から近いところ(黄色のシール)ほど、楽に切ることができる。
- ②大きいはさみは小さいはさみより力が入れやすいので、楽に切ることができる。

《実践を終えて》

- ①大小のはさみでダンボールを切らせるといった取り組みをさせることで、児童自らが動き出したくなる課題設定にすることができたと言える。
- ②調べる時間を十分に取ることで、児童達自らが、いろいろな事に気づかせることができた。
- ③個で考え、班で考え、全体で考えることで児童達の思考を深めるさせることができたと言える。
- ④大小のはさみを使ってダンボールを切ることで違いを見つさせることができた。
- ⑤はさみの青、緑、黄のシールが貼ってある場所でダンボールを切らせることで、はさみの中心(支店)を意識させることができたと言える。
- ⑥切る位置(作用点)、はさみの中心(支点)、力を加える位置(力点)といった言葉にまで気づかせることはできなかったが、それぞれの場所がはさみの切れ方に関係しているといった意識をもたせることや興味をもたせることはできた。
- ⑦はさみはどのようなしくみで物を切ることができるのかな?の発問は確かな発問とはならなかったと言える。はなはさみの中心(支点)があって、紙を切るところ(作用点)があって、力を入れるところ(力点)がある、とういように全体で一緒に確認をした方がよかったと考える。
- ⑧これからの学習(てこのはたらき)に興味をもたせる授業展開にすることができたと言える。